

南京戦史資料集

財団法人
偕行社

目次

日記の部

松井石根大将戦陣日記	昭12・11・1～13・2・28	1
「松井日記」について		3
昭和十二年十一月の部（摘記）		5
十二月の部（摘記）		11
昭和十三年一月の部（摘記）		26
二月の部（摘記）		36
松井大将「支那事变日誌抜粹」		46
「支那事变日誌抜粹」について		51
陸軍大将畑俊六日誌〈要約〉	昭13・1・29～13・3・23	52
杉山書簡（杉山陸軍大臣から松井大将宛書簡）		54
飯沼 守日記（陸軍少将・上海派遣軍参謀課長）	昭12・8・15～13・3・15	59
飯沼日記について		61
八月の部		64
九月の部		89
十月の部		130
十月二十八・二十九日までの各師団戦死傷概数		171

十一月の部

十一月十日までの死傷概数(重藤支隊は六日迄)

十二月の部

昭和十三年一月の部(一部要約)

二月の部(一部要約・後半簡約)

三月の部(簡約)

別掲(皇后陛下皇太后陛下・御詞ほか)

上海派遣軍参謀部第一課業務分担表

上海派遣軍司令部高等官職員表

重要兵器調(師団)

重要兵器調(師団外)

上村利道日記(上海派遣軍参謀副長・歩兵大佐)

昭和十二年十二月の部

昭和十三年一月の部

二月の部

中島今朝吾日記(第十六師団長・陸軍中将)

「中島日記」について

昭和十二年十二月の部

昭和十三年(戊寅)一月の部

金丸吉生軍曹手記(第十六師団經理部)

佐々木到一少将私記(歩兵第三十旅団長・陸軍少将)

三、敵前九十度旋回(十二月九日)

173

191

204

231

244

249

250

253

255

259

261

263

284

296

303

305

343

359

369

371

十一月の部

十一月十日までの死傷概数(重藤支隊は六日迄)

十二月の部

昭和十三年一月の部(一部要約)

二月の部(一部要約・後半簡約)

三月の部(簡約)

別掲(皇后陛下皇太后陛下・御詞ほか)

上海派遣軍参謀部第一課業務分担表

上海派遣軍司令部高等官職員表

重要兵器調(師団)

重要兵器調(師団外)

上村利道日記(上海派遣軍参謀副長・歩兵大佐)

昭和十二年十二月の部

昭和十三年一月の部

二月の部

中島今朝吾日記(第十六師団長・陸軍中将)

「中島日記」について

昭和十二年十二月の部

昭和十三年(戊寅)一月の部

金丸吉生軍曹手記(第十六師団經理部)

佐々木到一少将私記(歩兵第三十旅団長・陸軍少将)

三、敵前九十度旋回(十二月九日)

173

191

204

231

244

249

250

253

255

259

261

263

284

296

303

305

343

359

369

371

四、敵城外支隊との戦闘(十二月十日、十一日)

五、主陣地の攻略(十二月十二日)

六、退路遮断(十二月十三日)

七、南京攻略の歌

八、南京城内外の掃蕩(十二月十四日)

九、南京入城以後(十二月十五日—十三年一月二十二日)

山崎正男日記(第十軍参謀・歩兵少佐)

木佐木久日記(第十六師団後方参謀・歩兵少佐)

十二月の部

昭和十三年一月の部

伊佐一男日記(歩兵第七聯隊長・歩兵大佐)

折小野末太郎日記(歩兵第二十三聯隊第三中隊長(第一大隊長代理)歩兵大尉)

折田護日記(歩兵第二十三聯隊第二大隊砲小隊長・歩兵少尉)

前田吉彦少尉日記(抜粹)(歩兵第四十五聯隊第七中隊・小隊長)

井家又一日記(歩兵第七聯隊第二中隊・上等兵)

初年兵の手記「硝煙の合間に」(歩兵第七聯隊第一歩兵砲小隊N・Y一等兵)

水谷 莊日記「戦塵」(歩兵第七聯隊第一中隊・一等兵)

牧原信夫日記(歩兵第二十聯隊第三機関銃中隊・上等兵)

林(旧姓・吉田)正明日記(歩兵第二十聯隊第三中隊第一小隊第四分隊・伍長)

日程

本文

編集委員記

増田六助手記(歩兵第二十聯隊第四中隊第二小隊第三分隊長・伍長)……………昭12・12・13・12・12・14
海軍軍医大佐泰山弘道著 上海戦従軍日誌 卷ノ九、十……………昭12・12・13・12・12・19
523 521

作戰命令の部

第一、中央(参謀本部・大本営等)……………	533
臨参命第七十三号(12・8・15)……………	533
臨参命第七十九号(12・10・20)……………	533
臨参命第三百三十八号(12・11・7)……………	533
臨命第五百九十五号(12・11・7)……………	534
臨命第六百号(12・11・7)……………	534
大陸命第七号(12・12・1)……………	534
大陸命第八号(12・12・1)……………	534
大陸電第十八号・大陸指第五号(12・11・24)……………	535
松井集団参謀長宛参謀次長発電報(12・11・20)……………	535
第二、中支那方面軍……………	536
中方作命第一号(12・11・7)……………	536
崑山附近の地区における中国軍捕捉	
殲滅準備命令……………	536
支那方面今後の作戰に関する意見具申……………	536
南京攻略計画……………	537
南京攻略命令……………	538
南京攻略作戰ニ関スル陸海軍協定(12・12・2)……………	538

中方作命第二十七号(12・12・4)……………	539
南京城攻略要領(12・12・7)……………	539
南京入城後ニ於ケル処置……………	539
南京城ノ攻略及入城ニ関スル注意事項……………	540
中方作命第三十一号(12・12・9)……………	540
方面軍参謀長電報、軍参謀長宛(12・12・9)……………	540
中方作命第三十四号(12・12・10)……………	541
南京入城式実施要領……………	541
第三、上海派遣軍……………	543
その一 第十六師団……………	543
右側支隊命令(12・12・12)……………	543
右側支隊命令(12・12・12)……………	544
右側支隊命令(12・12・13)……………	544
右側支隊命令(12・12・13)……………	545
歩兵第三十旅団命令(22・12・14)……………	545
その二 第九師団……………	546
九師作命甲第二百二十五号(12・12・9)……………	546
九師作命甲第二百二十六号……………	546
九師作命甲第三百十号(12・12・13)……………	546
九師作命甲第三百一十一号(12・12・13)……………	547
六旅作命甲第一三四号(12・12・11)……………	548
六旅作命甲第一三五号(12・12・11)……………	548
11日夜間の城壁占領……………	548
夜間の城壁占領……………	548
軍隊区分……………	548
城内進入命令……………	548
城内掃蕩……………	548
城壁占領命令……………	548
11日夜間の城壁占領……………	548

六旅作命甲第一三七号 (12・12・13)	城内進入命令	549
六旅作命甲第一三八号 (12・12・13)	城内掃蕩命令	550
南京城内掃蕩要領		550
掃蕩実施ニ関スル注意		550
六旅作命甲第一三九号 (第九師団掃蕩隊命令) (12・12・14)	殘敵掃蕩命令	551
六旅作命甲第一四四号 (第九師団掃蕩隊命令) (12・12・16)	掃蕩並に警戒	551
第四、第十軍		552
丁集作命甲第三十一号 (12・11・19)	南京にむかう追撃命令	552
軍司令官訓令 (12・11・20)		552
丁集作命甲第四十七号 (12・11・30)	南京にむかう追撃準備	553
丁集作命甲第五〇号 (12・12・2)	追撃続行	553
丁集作命甲第五十六号 (12・12・6)	追撃続行	554
丁集作命甲第六十六号 (12・12・12)	一部南京蕪湖殘置主力杭州攻略準備	554
丁集作命甲号外 (12・12・13)	南京城内の敵殲滅命令	554
その一 第一百十四師団		555
一一四師作命甲第五十九号 (12・12・10)	雨花台攻撃	555
一一四師作命甲第六十号 (12・12・10)	雨花台攻略	556
一一四師作命甲第六十二号 (12・12・13)	城内の敵殲滅命令	556
歩一二八旅命 (右翼隊命令) (12・12・12)	一部を以て城内掃蕩	557
歩一二八旅命第六十六号 (12・12・13)	城内掃蕩	557
その二 第六師団		558
六師作命甲第八十一号 (12・12・10)	南京城占領命令	558

六師作命甲第八十二号 (12・12・13)	一部城内攻撃主力集結	558
六師作命甲第八十四号 (12・12・14)	南京西南部警備	558
六師作命甲第八十五号 (12・12・14)	南京入城式ニ関スル命令	559

通牒、訓示、作戰經過概要、戦時旬報、戦闘詳報、陣中日誌等の部

第一、中央 (陸軍省・参謀本部)	陸支密第一九八号	563
交戦法規の適用に関する陸軍次官通牒 (12・8・5)	次官より駐屯軍参謀長宛 (飛行便)	563
日本兵の南京米国大使館侵入に関する陸軍次官電報 (12・12・28)	陸士密電七五三号	564
軍紀風紀に関する参謀総長要望	次官より松井集団参謀長同特務部長宛電報	564
中方参第十九号、軍紀風紀ニ関スル件通牒 (13/9)	中支方面参謀長より 兩軍参謀長 直轄部隊長宛	564
参謀総長要望書 (13/4)	中支那方面軍司令官宛	565
第二、中支那 (派遣軍) 方面軍		567
上海方面に於ける報道、宣伝業務の現況		567
松井集団特務部業務分担表 (12・11・14)		570
参考	泰山日誌・昭12・10・14を参考のため (海軍軍医学校長より海軍省医務局長宛)	572
中支那方面軍軍律 (12・12・1)	中方軍令第一号	573
中支那方面軍軍罰令 (12・12・1)	中方軍令第二号	573
中支那方面軍軍律審判規則 (12・12・1)	中方軍令第三号	574

布告(案).....

軍律審判規則の改正(13・1・10).....

中支那方面軍司令官訓示(12・12・18).....

第三、上海派遣軍.....

その一 第十六師団.....

第十六師団「状況報告」(12・12・24).....

第十六師団「作戰經過ノ概要」(13・1・10).....

申継書(南京ニ於ケル申送り要点).....

歩兵第三十八聯隊「戦闘詳報」第十一号 自1212・1212・1312

前衛命令(12・12・12).....

前衛命令(12・12・12).....

歩兵第三十八聯隊命令(12・12・13).....

歩兵第三十八聯隊命令(12・12・13).....

前衛命令(12・12・13).....

前衛命令(12・12・13).....

戦闘詳報第十一号附表.....

歩兵第三十八聯隊「戦闘詳報」第十二号(12・12・14).....

歩兵第三十八聯隊命令(12・12・14).....

歩兵第三十八聯隊命令(12・12・14).....

戦闘詳報第十二号附表(12・12・14).....

中方軍令第四号.....

13・1・10頃中沢参謀長が天谷旅団長に申送ったもの、中沢資料にある

十字街及興衛和平門及下関戦闘詳報

堯化門北方四〇〇高地にて

興衛村にて

十字街東側高地攻略

紅山西方に進出続いて追撃

下関にむかう追撃

下関集結

死傷、武器彈藥損耗、鹵獲表

南京城内戦闘詳報

城内掃蕩

下関村落露営

死傷、武器彈藥損耗、鹵獲表、第十中隊俘虜も本表にあり

574

575

575

577

577

577

578

580

581

582

583

583

583

585

585

586

587

590

590

591

592

歩兵第三十三聯隊「南京附近戦闘詳報」 自1212・1212・1410

十二月十日ノ行動.....

十二月十一日ノ行動.....

十二月十二日ノ行動.....

戦闘詳報附表.....

死傷、武器彈藥損耗、鹵獲表、俘虜、遺棄死体を含む

歩兵第九聯隊第二大隊「戦闘詳報」第九号 自1212・1212・139

戦闘詳報附表.....

死傷、鹵獲表

歩兵第二十聯隊第四中隊「陣中日誌」第五号 自1212・1212・311

その二 第九師団.....

「第九師団作戰經過ノ概要」.....

目録.....

第三章 其四 常州—淳化鎮間.....

其五 追撃間ニ於ケル補給状況.....

第四章 淳化鎮附近ノ戦闘及追撃.....

第五章 南京城攻撃戦闘.....

彼我の損害表含む

第六章 結言.....

歩兵第三十五聯隊「上海附近・南京附近戦闘經過概要」.....

南京附近戦闘 自1212・1212・157

歩兵第七聯隊「戦闘詳報」第七号 自1212・1212・247

十二月十二日.....

十二月十二日.....

618

618

616

616

616

615

614

614

614

613

613

613

610

608

606

603

603

599

598

596

595

追撃並ニ南京攻撃ニ於ケル彼我損傷一覽表	692
第六師団「戦時旬報」第十五号附録	692
北支転進以降南京占領までの欠を補い 且つ綜合的所見を記載	694
第一 聖旨令旨	694
第二 感状訓示	694
第三 所見	694
第四 上陸以後ニ於ケル衛生状況	696
戦死傷病者発生状況を含む	696
第五 經理(乗船ヨリ南京占領迄ノ給養補給)	697
其の三 国崎支隊	699
歩兵第九旅団「陣中日誌」	自1212・1111・1412
十一月十二日宋慧敏營長降伏状を記載	699
国崎支隊「戦闘詳報」第十号	自1212・1212・163
浦口攻撃戦闘経過	701
十二月十二日	701
十二月十三日	702
十二月十四、十五日	704
戦闘詳報第十号附録	705
死傷、武器彈藥損耗、鹵獲表	705
歩兵第四十一聯隊第三大隊「戦闘詳報」	自1212・1212・1614
707	707
江興洲附近戦闘詳報	707
歩兵第四十一聯隊第十二中隊「戦闘詳報」(12・12・14)	709
江興洲敗殘兵掃蕩	709

中国側情報の部

「抗日戦争正面戦場」全般紹介	711
編集説明	713
南京保衛戦闘詳報	714
一、作戦地点	714
二、作戦部隊(戦闘序列)	714
三、作戦前の彼我双方の情況と配置の概要	714
四、戦闘経過概要	715
十二月四日—十二月十三日	715
五、所見	720
南京衛戍軍戦闘詳報の一部解説	721
南京衛戍軍突撃計画	722
重要電報	723
蔣介石の唐生智あて電文	一九三七年十一月二十五日
723	723
蔣介石の顧祝同らあて秘密電文原稿	一九三七年十一月三十日
723	723
唐生智の命令原稿	一九三七年十二月〇日
724	724
唐生智の錢大鈞あて秘密電文	一九三七年十二月十三日
725	725
唐生智の蔣介石あて秘密電文	一九三七年十二月十七日
725	725
「抗日戦争正面戦場」について	725
南京防衛の経過	727
南京衛戍軍司令長官 唐生智	727
蔣公毅	自一九三七、十二、十一
至一九三八、二、十七	733
摘記	733
李宗仁回憶録	一九三七年十一月二十一日とその後
745	745
中国軍第五戦区司令官	745

第三国(米・英) 情報の部

ザ・チャイナプレス(大陸報、米国系).....	上海英字新聞抜粋.....	747
ザ・ノースチャイナ・デイリーニュース(英国系).....	上海英字新聞抜粋.....	747
「南京安全区計画」頓挫す.....	ザ・チャイナプレス(37・12・4).....	749
ジャキノ神父、計画立案者に日本側の回答を打電.....	南京発、37・12・2ロイター.....	749
緊急を要する好意的配慮.....	ロイター東京発、37・12・3.....	749
日本、作戦基地覆滅を決定―広田言明.....	大陸報、37・12・10.....	750
松井、唐に南京放棄を勧告.....	大陸報、37・12・10.....	750
南中国は、あくまで政府に忠誠をつくす.....	大陸報、37・12・10.....	750
二七年事件を経験した七人の南京在住アメリカ人、最後まで残留の模様.....	大陸報、37・12・10.....	750
「下関」埠頭の全域、中国軍当局により放火.....	大陸報、37・12・10.....	751
日本は南京陥落後も戦争を続行と最高会議で決定.....	同盟東京電、37・12・9.....	751
南京郊外の村落は、火災により破壊、避難民安全区に殺到、火災による破壊は防衛作戦のひとつ.....	南京ロイター電、37・12・9.....	751
中国軍、首都防衛のため激戦を継続.....	大陸報、上海、37・12・13.....	752
東京報道、日本軍は苦戦の後、南京包囲.....	ロイター、東京電、37・12・12.....	752
中国、戦争継続を決定.....	ロイター、東京電、37・12・12.....	752
戦闘は激烈を極める.....	ロイター、上海、37・12・13.....	753
蕪湖事件で英国水兵死亡、将校負傷.....	大陸報、上海、37・12・13.....	753
日本軍機関銃弾、英艦レディバードを直撃.....	ロイター、漢口電、37・12・12.....	753

日本軍厳粛な戦没者慰霊祭を行う.....	大陸報、37・12・19.....	753
日本軍の蛮行、確認.....	大陸報、上海、37・12・25.....	753
南京、平常にもどる.....	ザ・ノースチャイナ・デイリーニュース.....	754
米、南京の日本軍行動に抗議.....	大陸報、38・1・9.....	754
南京安全区は、なお避難民で充満.....	ザ・ノースチャイナ・デイリーニュース.....	755
松井大将、軍紀粛正を命ず.....	大陸報、上海、38・2・8.....	756
日本軍、軍紀を粛正す.....	ザ・ノースチャイナ・デイリーニュース.....	756
南京住民、帰宅.....	ザ・ノースチャイナ・デイリーニュース.....	756
一〇万人が彼らの地区に帰る。他の五つの地域はまだ閉鎖されている.....	前の家に帰った世帯数、人員数が記載されている.....	756

戦史研究ノートの部

「角証言」の信憑性について.....	758
経緯.....	758
角記録摘記.....	758
下関大逆殺に関する軍司令部内の出来事.....	758
「支那事变当初六ヶ月間の戦闘」より、 下関事件に関係深いものを摘記.....	758

6D再度の電話	759
死体の様相	760
軍司令官の下関状況視察	760
下関付近死体除去について	760
二十日朝軍司令官の下関附近まで独断視察	760
角氏と編集委員長の一問一答	762
むすび	765
栗原利一・証言とスケッチ	765
栗原証言要約	766
考察	768
栗原氏のスケッチ	771
被占領側から見た日本軍の南京占領	771
まえがき	771
一、大規模的集体屠殺期	772
掃蕩	773
難民の生活	773
自動車の掠奪	773
放火	774
二、普遍的屠殺期	774
兵民分離	775
自治委員会の発足	775
婦女暴行	775

病院の負傷者	775
三、零星的屠殺期	776
収容所からの難民追立て	776
外国人に対する日本軍の認識	777
四、南京事件の終焉	777
戦時国際法の部	
戦時国際法講義 信夫淳夫著	779
第一卷 三二〇	781
三二一	782
第二卷 八四四	782
八四九	784
第一 俘虜収容状況	784
第二 俘虜の取扱	784
第三 俘虜の態度	785
海軍の俘虜取扱状況	785
昨日の敵は今日の友・文武湖畔にたつ「中国軍抗日陣歿将士の碑」	789